

国立国会図書館の書誌データ作成・提供の現況と今後の展開

国立国会図書館 収集書誌部 収集・書誌調整課（課長補佐）

清水 悦子

はじめに

国立国会図書館は日本で唯一の納本図書館であり、日本における全国書誌作成機関です。当館は、納本等で収集した図書館資料の標準的な書誌データを作成し、国内外に提供しています。

書誌データ作成・提供は、当館の創設以来行ってきた重要な業務ですが、2010～2011年度にかけて大きく変わった点があります。本稿では、変更点を中心に紹介したいと思います。統計などの資料を添付していますので、あわせてご参照ください。

1 国立国会図書館における書誌データの作成

当館では、2011年12月に業務用システムの入替え¹を行いました。入替え前は、日本語や欧文の図書・非図書・逐次刊行物等主要な書誌データ、アジア言語資料の書誌データ、雑誌記事索引のデータを、それぞれのシステムで別々に作成していました。新しいシステムでは、これらを1つのシステムに統合しました。また、新しいシステムでは、書誌データのフォーマットとして事実上の国際標準であるMARC21フォーマットを、文字コードとしてUnicodeを採用しました。このことにより、当館の書誌データを一元的に扱うことができるようになり、また国際的流通性を向上させることができました。

また、当館が収集したインターネット資料や、デジタル化した資料等に対し、メタデータを作成して利用に供しています。提供しているサービスごとに、メタデータの作成方法等が異なります。詳細は別添の資料（表4）をご参照ください。

2 国立国会図書館における書誌データの提供

当館では、様々な方法で書誌データを国内外に提供しています。インターネット上で利用可能な「国立国会図書館サーチ（NDLサーチ）」及び「国立国会図書館蔵書検索・申込

¹ 入替え前のシステムは当館が独自に開発、維持管理してきたもの。新しいシステムは、諸外国で広く使われている標準的な図書館総合システムを導入した。

システム（NDL-OPAC）」が、一般的に利用されている主要な提供ツールです。

(1) 国立国会図書館サーチ²

「国立国会図書館サーチ（NDLサーチ）」は、2010年8月に開発版を試行公開し、2012年1月に本格システムとして稼働を開始しました。NDLサーチでは、205のデータベースを対象に、約7200万件のデータを検索できます³。当館所蔵資料のみならず、国内外の関係機関（各種図書館・博物館・文書館・研究機関を含む）の蔵書、当館や関係機関が収録している各種のデジタル情報、近日中に刊行される図書（近刊情報）⁴など様々な機関の情報を統合的に検索することができます。「韓国国立中央図書館蔵書目録」も、統合検索の対象に含まれます。なお、NDLサーチで検索できる全国の公共図書館等の蔵書目録は、以前から「総合目録ネットワーク」として提供していました。児童書総合目録、全国新聞総合目録データベースとともに、2012年1月にNDLサーチにシステムを統合しました。

インターフェースは日本語から中国語・韓国語・英語に切り替えが可能です。自動翻訳機能を使用して、タイトルなど書誌データ等も含めて表示された文言を翻訳することができます。

また、外部インターフェース（API）でメタデータを提供しており⁵、様々なシステムやウェブサービスで、NDLサーチの保持する情報が利活用されています。

(2) 国立国会図書館蔵書検索・申込システム

「国立国会図書館蔵書検索・申込システム（NDL-OPAC）」は、2002年から提供していましたが、2012年1月から新しいシステム⁶で提供しています。

● アジア言語の資料、雑誌記事索引も一度に検索可能

以前のシステムでは、アジア言語資料はNDL-OPACとは別の「アジア言語OPAC」で提供していました。また、雑誌記事索引はNDL-OPACで提供していましたが、図書や雑誌等の資料を検索する画面とは別の画面で、検索する必要がありました。これは、書誌データの作成が3つに分かれていたことと同様です。

新しいシステムでは、これらを全て1つの画面で一度に検索できるようにしました。そのため、検索条件に合致すれば、例えば韓国語の図書と日本語の図書や雑誌記事を、同じ画面で表示することができます。

² 2010年度（第13回）日韓業務交流「国立国会図書館サーチと日韓自動翻訳の現況及び課題」

³ 2012年7月現在。

⁴ 出版社からの近刊情報を集約し、書店・取次に配信することを目的とした「JPO近刊情報センター」（<http://www.kinkan.info/>）とのシステム連携による。

⁵ データ交換には「国立国会図書館ダブリンコアメタデータ記述（DC-NDL）」のメタデータセットを用いている。

⁶ 新しいNDL-OPACは、脚注1の図書館総合システムにより提供している。

- 作成中の書誌データも公開

また、これまで当館に対して、一日も早い書誌データ提供を求める声が多く寄せられていました。これにこたえるため、一部の書誌データ⁷については作成中の書誌データを公開することとしました。当館で資料を受け入れてから数日後には、作成中の書誌データを検索することができます。ただし、完成済みの書誌データと区別するため、「未完成である」ことを表示しています。

- 全国書誌を NDL-OPAC から提供

2011年11月まで、「日本全国書誌」を当館のHPから提供していました。以前の「日本全国書誌」は、1週間ごとに作成する固定したリストでした。そのため、リストの中で並べ替えを行うことはできず、また検索もウェブブラウザの文字列検索機能に限られていました。

新しいシステムでは、NDL-OPACの中に、「日本全国書誌」収録対象の書誌データを検索するための画面があります。日付で検索すると、その日に当館で作成が完了した書誌データを一覧表示します。検索結果を並べ替えたり、タイトルや著者、資料種別、出版年、分類・件名等、様々な項目で絞り込んだりすることが可能です。

- 書誌データのダウンロード

また、新しいシステムでは、指定した検索結果集合の保存やダウンロードも可能です。MARC形式等いくつかの形式で、書誌データをダウンロード⁸できます。

このダウンロード機能を利用して、学校図書館や公共図書館での業務に当館の書誌データを活用してもらう取組み（「公共的書誌情報基盤」整備）を行っています。この取組みは、当館の書誌データを迅速にかつ無償で提供し広く社会で活用されることを目指して、2010年度より段階的に実施しているものです。

学校図書館や公共図書館が選書や目録作成などの業務に当館の書誌データをダウンロードして使う場合、無償で使用可能です。ただし、各図書館でデータを取り込んで使用するには、各館のシステムでの対応が必要となります。

ダウンロードのサービス開始以来、利用件数は順調に増えています。

(3) OCLC への書誌データ提供

当館作成書誌データの国際的な流通を促進するために、国際的書誌ユーティリティ OCLC (Online Computer Library Center) のオンライン総合目録 WorldCat を通じて、

⁷ 納本等により収集整理した国内出版物及び外国刊行の日本語出版物。ただし、アジア言語資料及び地図資料は除く。

⁸ 特定の書誌データを1件だけダウンロードしたり、一覧から必要なものを選択した後ダウンロードしたり、検索結果すべてをダウンロードしたりすることができる。

JAPAN/MARC（全国書誌の機械可読版）の提供を行っています。2010年3月、OCLCと相互協力に関する覚書を交わし、同年11月から提供を開始しました。当初はUNIMARCフォーマットにより、そして2012年1月以降はMARC21フォーマットにより提供しています。

3 国立国会図書館における典拠データの提供

(1) 国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス (Web NDL Authorities)

「国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス (Web NDL Authorities)」は、当館が維持管理する典拠データを一元的に検索・提供するサービスです。

このサービスでは、検索した典拠データを個別にダウンロードすることができ、また、国立国会図書館件名標目表 (NDLSH) の収録範囲となる典拠データを一括してダウンロードすることが可能です。

また先に紹介したNDLサーチと連携しており、Web NDL Authoritiesの検索結果から典拠とリンクしている書誌データをNDLサーチで検索することができます。

Web NDL Authoritiesは、ウェブ上の情報資源に意味の明確なデータを付与し、機械的な意味処理を目指す「セマンティック・ウェブ」の技術に対応しています。セマンティック・ウェブに適合した記述モデルであるRDF⁹をデータの記述に使用し、URIにより各典拠データを参照可能です。

(2) VIAF (Virtual International Authority File) への参加

当館では、今年度VIAF (Virtual International Authority File) ¹⁰に参加する予定です。VIAFに参加することにより、当館の典拠データが世界的に活用されるようになります。また、VIAF参加を機会に、前述のWeb NDL AuthoritiesからVIAFにリンクができるように改修を行っています。これらにより、日本語という言葉の壁を越えて、日本の典拠データが世界とつながることを期待しています。

4 今後の課題

当館では、次の3～5年程度を視野に戦略目標を策定するため、「将来構想会議」を設置し、また、この会議にはテーマ別の部会を設置しました。書誌データに関する課題については、「資料組織化部会」において検討しています。

検討課題の中から、3点を挙げて紹介したいと思います。

⁹ Resource Description Framework。メタデータを記述する枠組みの1つで、World Wide Web Consortiumによりまとめられている。

¹⁰ 世界の名称典拠ファイルを統合し、同一の対象に対する典拠を相互にリンクすることを目的とするプロジェクト。2012年4月現在で世界の19ヶ国22機関が参加し、OCLCが運営している。<http://viaf.org/>

1 つめは、電子資料¹¹への対応です。

2012 年 6 月に国立国会図書館法の一部を改正する法律¹²が成立し、2013 年 7 月からオンライン資料を法律に基づいて収集することになりました。収集した資料は、館内での閲覧及び複写提供を行うことを想定しています。収集開始に向けて、今後、下位規定の整備等を行っていく予定です。

現在の仕組みでは、電子資料は、書誌データを作成して NDL-OPAC 等で提供する通常の図書館資料とは、別々に扱わざるを得ません。

しかし、NDL サーチで実現しているように、「紙の資料も電子資料も」一元的に検索され提供されるのが望ましいと考えます。従来のいわゆる書誌データとメタデータを区別なく、利用しやすい形で扱うための仕組みを、検討していく必要があります。

2 つめは、「資源の記述とアクセス」(RDA) への対応です。

米国議会図書館は、2013 年 3 月 31 日から RDA を導入すると発表しました。世界的にも、次々と目録規則を切り替える動きが加速するとみられます。当館の場合、別添の図にある通り、欧文図書等の目録規則に「英米目録規則第 2 版」(AACR2) を適用しています。そのため、AACR2 から RDA への切り替えが喫緊の課題と考え、対応準備を進めています。

国内刊行資料には、基本的に「日本目録規則」(NCR) を適用しています。NCR は、日本図書館協会 (JLA) が維持管理しています。RDA との関係で、この NCR をどのように適用していくのか、JLA 等外部機関とも連携して検討を進める必要があります。

3 つめは、典拠コントロールの拡充です。

インターネットの検索エンジン等と比べたとき、図書館が提供する検索システムが優れている最も大きな差異は、典拠を用いて標目をコントロールしている点であると言えるでしょう。その意味でも典拠は当館にとっても重要な要素ですが、典拠の維持管理にはたいへんコストがかかります。そのため、実際には、典拠コントロールの範囲が一部にとどまっています。今後は、現在典拠コントロールを行っていない資料群 (日本語以外の外国刊行資料、博士論文など) にも広げるなど、典拠の拡充を図っていきたいと考えています。

以上 3 点を含め、当館では、書誌データの今後の展開を今まさに検討しているところです。今年度中に、方向性をまとめる予定です。

今回の業務交流で、国立中央図書館での最新動向を知ることができ、大いに参考にさせていただきたいと思っています。

¹¹ ここでは、有体の媒体によるパッケージ系の電子資料は含まない。

¹² 納本制度に準じて、私人が出版するオンライン資料 (インターネット等により出版される電磁的記録で、図書又は逐次刊行物に相当するもの) について、当館への送信等を義務付ける。有償又は DRM (Digital Rights Management System 技術的制限手段) が付されたものについては、当分の間義務を免除する。

(別添資料)

図：国立国会図書館で適用している目録法、分類法、件名標目表

表 1：2011 年度書誌データ作成件数

表 2：書誌データ累積件数

表 3：典拠データ件数など

表 4：メタデータ作成状況

表 5：OCLC データ提供数 (MARC21 フォーマット)

(図：国立国会図書館で適用している目録法、分類法、件名標目表)

▶ 目録規則			
▶ 日本目録規則1987年版改訂3版(NCR)			
▶ 英米目録規則第2版(AACR2)			
	図書	非図書	逐次刊行物
日本語	NCR	NCR	NCR
日本語以外			
欧文	AACR2	AACR2	NCR
中国語	NCR	NCR	NCR
韓国語	NCR	NCR	NCR
アジア諸言語	AACR2	AACR2	AACR2
▶ 分類表			
▶ 国立国会図書館分類表(NDLC)			
▶ 博士論文・規格レポート等 一部を除く全資料群に付与			
▶ 日本十進分類法(NDC)			
▶ 和図書・非図書資料・電子資料・地図資料に付与			
▶ 件名標目表			
▶ 国立国会図書館件名標目表(NDLSH)			
▶ 一部を除く和図書に付与			

(表1：2011年度書誌データ作成件数)

資料種別	新規作成件数
和図書	116,750
中国語・朝鮮語図書	12,983
洋図書	26,707
アジア諸言語図書	8,012
和雑誌	2,527
中国語・朝鮮語雑誌	76
洋雑誌	265
アジア諸言語雑誌	27
和新聞	232
中国語・朝鮮語新聞	0
洋新聞	7
アジア諸言語新聞	0
マイクロ資料	10,321
映像資料	6,051

録音資料	8,170
機械可読資料	4,374
地図資料	5,254
楽譜資料	35
カード式資料	21
静止画像資料	213
博士論文	13,243
文書類	0
点字資料	164

(表 2 : 書誌データ累積件数 (2011 年度末現在))

資料種別	累積件数
日本語図書	4,066,222
日本語以外図書	1,678,330
日本語逐次刊行物	181,615
日本語以外逐次刊行物	66,623
マイクロ資料	3,116,454
映像資料	98,360
録音資料	576,793
機械可読資料	48,609
地図資料	220,089
楽譜資料	919
カード式資料	400
静止画像資料	5,488
博士論文	549,454
文書類	23,831
点字資料	5,044
その他	0

(表 3 : 典拠データ件数など (2012 年 6 月末現在))

典拠種別	件数	著者標目として使用	件名標目として使用	NDLSH に収録
個人名	773,051	●	●	一部の固有 名件名 (国 家名など) を収録
家族名	2,153		●	
団体名	181,415	●	●	
地名	26,987	●	●	

統一タイトル	3,844		●	
普通件名※	98,913		●	●
細目	322			●
計	1,086,685			

※事前結合方式（件名標目に細目をあらかじめ結合して主題を表現する）を採用しているため、「図書館--日本--名簿」などの細目付き件名も多数存在する。ただし、NDLSH に収録される細目付き件名は、「日本--歴史--1945～」などの一部分である。

(表4：メタデータ作成状況)

サービス	資料	資料の内容（記述対象）	メタデータの作成方法	入力規則等	メタデータスキーマ
国立国会図書館デジタル化資料	デジタル化資料	図書（貴重書含む）、雑誌、博士論文等をデジタル化した画像	紙媒体の原資料の書誌データを基に、デジタル化した資料の特性（例：デジタル化した年月日）及び NDL で管理上必要な情報（例：アクセス制限）を付与	原資料の準拠する基準に拠る	国立国会図書館ダブリンコアメタデータ記述（DC-NDL2011年12月版）及び DCNDL-PORTA（DC-NDL拡張スキーマ）
	デジタル化した音源（歴史的音源）	SP 盤等をデジタル化した音源	コンテンツと共に購入したメタデータに、NDL で管理上必要な情報（例：アクセス制限）を追加	購入元で独自に入力	同上
インターネット資料収集保存事業（著作別）	インターネット資料（著作別）	NDL が収集したインターネット上の刊行物（オープンデジタル資料）。国の機関や地方公共団体、独立行政法人、大学などがウェブサイトに掲載した白書、年鑑、報告書、広報誌、雑誌論文等の電子ファイル	NDL 職員が付与し、一部のメタデータ（ファイルフォーマット及び容量等）については、システムで自動付与	「インターネット資料（著作別）メタデータ作成ガイドライン」 その他、『国立国会図書館「日本目録規則 1987 年版改訂 3 版」適用細則』を参考	同上

インターネット資料収集保存事業（ウェブサイト別）	ウェブサイト	国の機関や地方公共団体、独立行政法人、大学などが公開するウェブサイトや国際的・文化的イベントのウェブサイト等	タイトル、公開者等情報資源の発見に必要な最低限のメタデータを職員が付与 一部のメタデータ（保存先のURL等）は、システムで自動付与	「インターネット資料（ウェブサイト別）メタデータ作成ガイドライン」 その他、「日本目録規則1987年版改訂版」及び「日本目録規則適用細則」を参考	国立国会図書館メタデータ記述要素（2001年3月）
データベース・ナビゲーション・サービス(Dnavi)	データベース	インターネット上で公開されているデータベース	記述対象データベースの管理責任者から提供された情報(データベースのURL、タイトル、作成者、公開日、内容説明の記述等)を基に作成し、一部のメタデータ（NDC分類、NDL資源タイプ等）については、NDL職員が付与	「Dnaviメタデータ作成ガイドライン」 その他、「日本目録規則1987年版改訂2版」及び『国立国会図書館「日本目録規則1987年版改訂2版」適用細則』を参考	同上

(表5 : OCLC データ提供数 (MARC21 フォーマット))

提供年月	提供件数	備考
2012年1月	4,387,461	提供フォーマット変更 (UNIMARC フォーマット⇒MARC21 フォーマット) を機に、全件提供
2012年3月	19,581	
2012年4月	33,472	
2012年7月	50,946	
計	4,491,460	WorldCat の日本語資料は 7,522,390 件 (2011年7月時点)